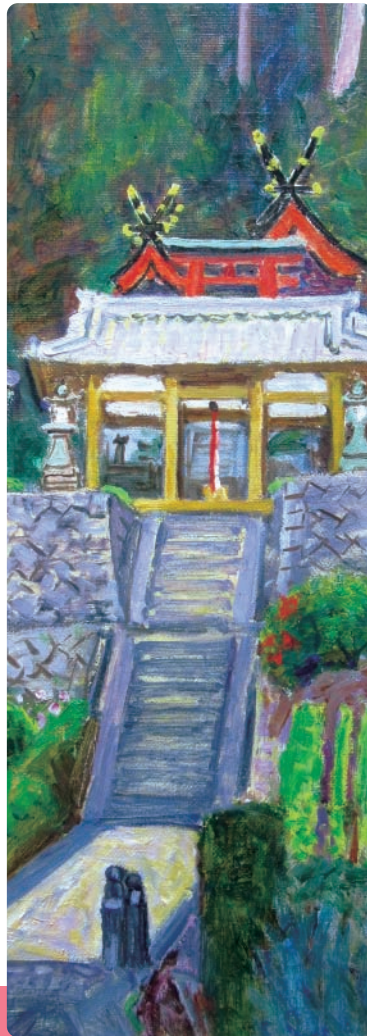
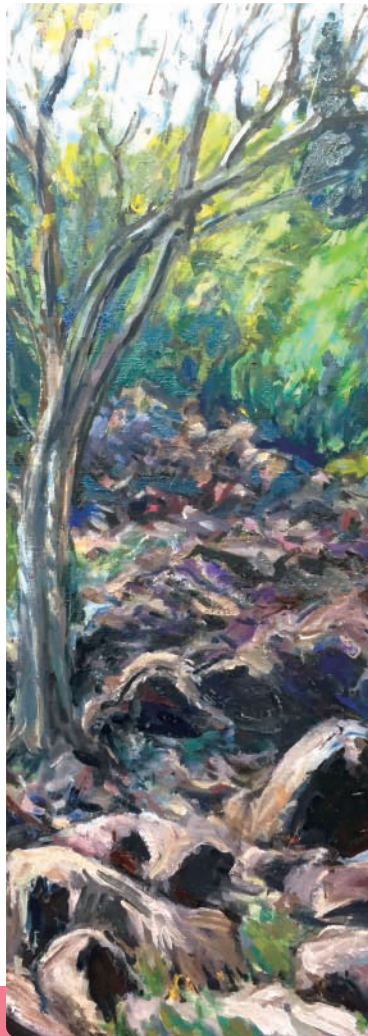
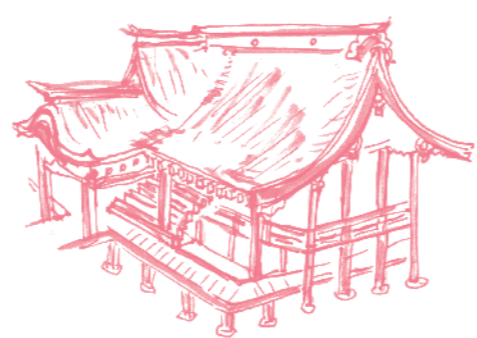
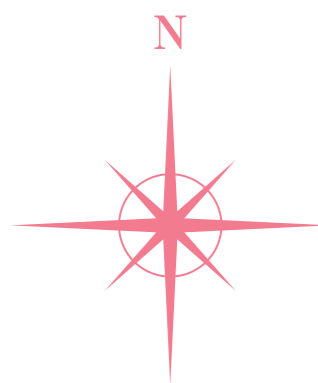


山添村 の 文化財

NARA YAMAZOEMURA



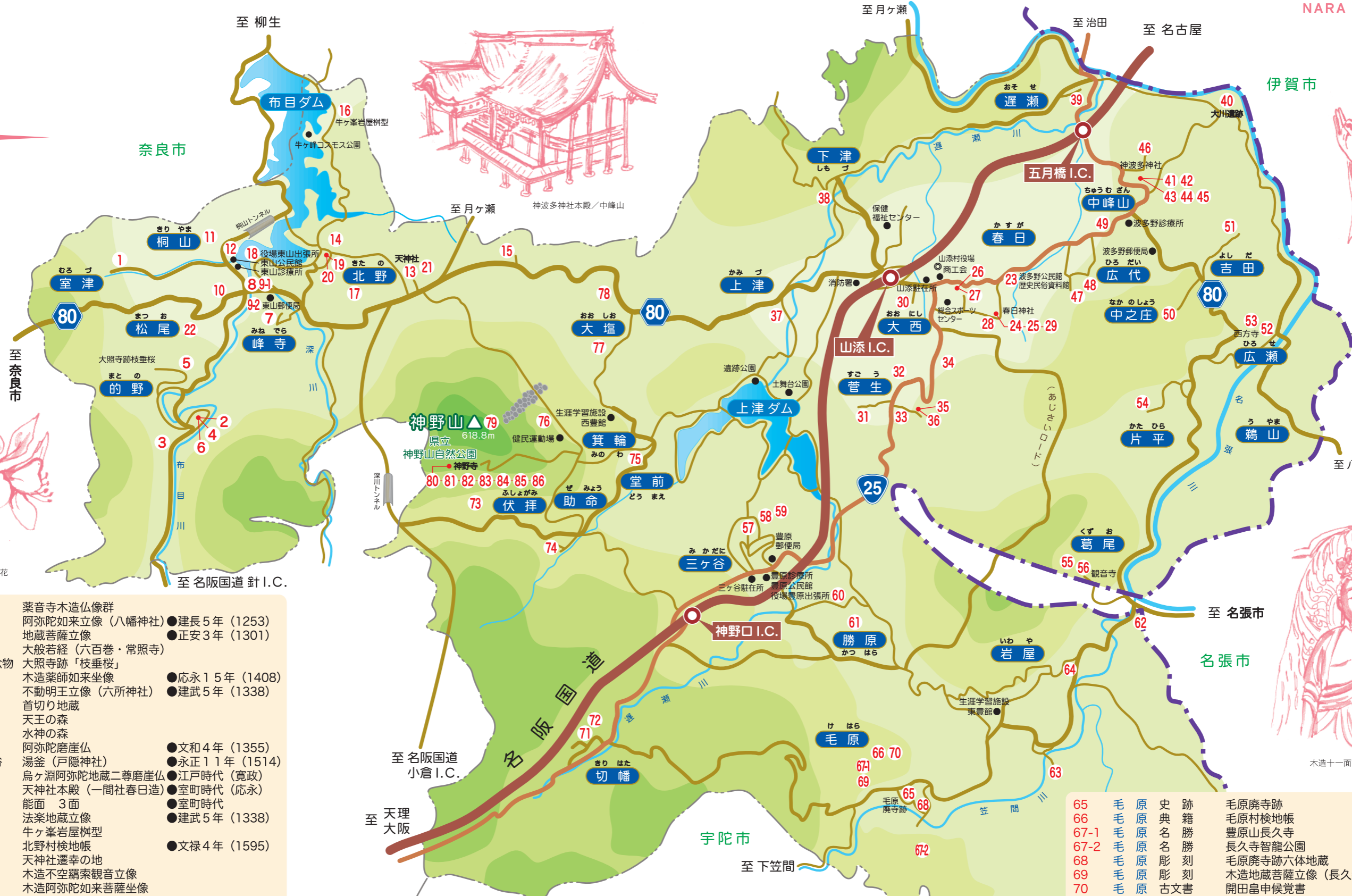
約一万五千年の
奇跡の文化



木造阿彌陀如来立像 / 広瀬



木造十一面観音立像 / 葛尾



- 1 室津 彫刻 薬音寺木造仏像群
- 2 的野 彫刻 阿彌陀如来立像 (八幡神社) ●建長5年 (1253)
- 3 的野 彫刻 地藏菩薩立像 ●正安3年 (1301)
- 4 的野 典籍 大般若経 (六百巻・常照寺)
- 5 的野 天然記念物 大照寺跡「枝垂桜」
- 6 的野 彫刻 木造薬師如来坐像 ●応永15年 (1408)
- 7 峰寺 彫刻 不動明王立像 (六所神社) ●建武5年 (1338)
- 8 峰寺 彫刻 首切り地藏
- 9-1 峰寺 史跡 天王の森
- 9-2 峰寺 史跡 水神の森
- 10 桐山 彫刻 阿彌陀磨崖仏 ●文和4年 (1355)
- 11 桐山 有形民俗 湯釜 (戸隠神社) ●永正11年 (1514)
- 12 桐山 彫刻 烏ヶ淵阿彌陀地藏二尊磨崖仏 ●江戸時代 (寛政)
- 13 北野 建造物 天神社本殿 (一間社春日造) ●室町時代 (応永)
- 14 北野 彫刻 能面 3面 ●室町時代
- 15 北野 彫刻 法楽地藏立像 ●建武5年 (1338)
- 16 北野 名勝 牛ヶ峯岩屋樹型 ●文禄4年 (1595)
- 17 北野 典籍 北野村検地帳 ●文禄4年 (1595)
- 18 北野 史跡 天神社遷幸の地
- 19 北野 彫刻 木造不空羂索観音立像
- 20 北野 彫刻 木造阿彌陀如来菩薩坐像
- 21 北野 建造物 天神社若宮美統神社社殿
- 22 東山地区 無形民俗 東山地区神事芸能 東山神事芸能保存会
- 23 春日 建造物 旧春日小学校講堂 ●明治36年 (1903)
- 24 春日 建造物 春日神社本殿 ●正中2年 (1325)
- 25 春日 建造物 石灯籠 (春日神社) ●正和2年 (1313)
- 26 春日 建造物 宝篋印塔 (不動院) ●正和2年 (1313)
- 27 春日 建造物 五輪塔 (不動院) ●正和2年 (1313)
- 28 春日 天然記念物 桜樹
- 29 春日 無形民俗 菅生春楽社能楽 (春日神社) 菅生春楽社
- 30 大西 彫刻 五輪塔 (極楽寺) ●正中2年 (1325)
- 31 菅生 建造物 五輪塔 ●正中2年 (1325)
- 32 菅生 無形民俗 菅生のおかけ踊り おかけ踊り保存会
- 33 菅生 天然記念物 大井戸の杉 ●樹齢 350 ~ 400年
- 34 菅生 彫刻 地藏菩薩立像
- 35 菅生 彫刻 光背地藏菩薩立像 ●文明11年 (1479)
- 36 菅生 彫刻 光背地藏菩薩立像 ●大永8年 (1528)

- 37 上津 彫刻 五輪塔 (増福寺) ●正中2年 (1325)
- 38 下津 彫刻 五輪塔 (善成寺) ●正中2年 (1325)
- 39 遅瀬 彫刻 十三磨崖仏 ●正中2年 (1325)
- 40 中峰山 史跡 大川遺跡
- 41 中峰山 建造物 神波多神社本殿 ●正和1年 (1312)
- 42 中峰山 建造物 石灯籠 (神波多神社) ●正平14年 (1359)
- 43 中峰山 建造物 五輪塔 ●正中2年 (1325)
- 44 中峰山 建造物 神波多神社神楽 (獅子舞) 獅子神楽保存会
- 45 中峰山 無形民俗 神波多神社神楽 (獅子舞) 獅子神楽保存会
- 46 中峰山 彫刻 光背地藏菩薩立像 ●弘治2年 (1556)
- 47 広代 彫刻 石灯籠 (菅原神社) ●建武5年 (1338)
- 48 広代 彫刻 十一面観音菩薩立像
- 49 広代 彫刻 十三仏碑
- 50 中之庄 建造物 五輪塔 ●正中2年 (1325)

- 51 吉田 史跡 岩尾神社神体石 (巨岩)
- 52 広瀬 彫刻 木造阿彌陀如来立像 (西方寺: 快慶作)
- 53 広瀬 建造物 五輪塔 (西迎寺) ●正中2年 (1325)
- 54 片平 建造物 五輪塔 (浄明寺) ●正中2年 (1325)
- 55 葛尾 彫刻 木造十一面観音立像 (観音寺)
- 56 葛尾 典籍 大般若経 600巻 (観音寺)
- 57 三ヶ谷 天然記念物 八柱神社社叢
- 58 三ヶ谷 彫刻 多聞寺「シヨウト地蔵」 ●大永2年 (1522)
- 59 三ヶ谷 古文書 伊勢講の帳 19点
- 60 勝原 彫刻 磨崖六地藏・富士講碑
- 61 勝原 有形民俗 春日講 宮曼陀羅・赤童子図・漆器
- 62 岩屋 史跡 岩屋瓦窯跡
- 63 岩屋 史跡 平岩古墳
- 64 岩屋 史跡 八柱神社境内

- 65 毛原 史跡 毛原廃寺跡
- 66 毛原 典籍 毛原村検地帳 ●文禄4年 (1595)
- 67-1 毛原 名勝 豊原山長久寺
- 67-2 毛原 名勝 長久寺智龍公園
- 68 毛原 彫刻 毛原廃寺跡六体地藏
- 69 毛原 彫刻 木造地藏菩薩立像 (長久寺)
- 70 毛原 古文書 開田申中候覚書
- 71 切幡 彫刻 木造地藏菩薩立像 (極楽寺) ●寛文7年 (1667)
- 72 切幡 彫刻 誕生釈迦仏 (極楽寺)
- 73 伏拝 無形民俗 伏拝の御殿万歳 伏拝御殿万歳保存会
- 74 助命 彫刻 地藏菩薩立像
- 75 箕輪 彫刻 青面金剛薩埵菩薩立像
- 76 大塩 彫刻 塩瀬地藏坐像
- 77 大塩 典籍 大塩村検地帳 ●文禄4年 (1595)
- 78 大塩 彫刻 磨崖地藏・阿彌陀二尊像
- 79 神野山 名勝 神野山
- 80 神野寺 彫刻 銅造菩薩半跏像 (伝如意輪観音像)
- 81 神野寺 天然記念物 神野寺境内の二次林
- 82 神野寺 彫刻 薬師如来木坐像
- 83 神野寺 彫刻 日光菩薩木立像
- 84 神野寺 彫刻 月光菩薩木立像
- 85 神野寺 天然記念物 天狗杉
- 86 神野寺 名勝 神野寺境内及び寺領地

三重県

至名張市

名張市

宇陀市

至名阪国道 小倉I.C.

至天理大阪

伊賀市

至名古屋

至治田

至月ヶ瀬

至柳生

奈良市

至奈良市

ヤマツツジ / 山添村の花

やくおん じ もくぞうぶつぞうぐん

薬音寺木造仏像群

地域／室津[むろづ]

1
マップ



村指定
有形文化財

薬音寺には、本尊の十一面観音立像を含めて20躯の仏像があり、制作年代は10世紀から13世紀と幅があります。小像ですが多くは平安時代の作で、ほぼ全てに共通した技法、造り、彩色を施してあり、顔の表現にも何点かには類似が見られます。室津地区の小さなお堂にこれだけのまとまった数の仏像が今まで維持管理されてきたことは奈良県内でも類例がなく、仏像群としての価値が非常に高いものです。

※拝観をご希望の方は、山添村教育委員会事務局までご連絡ください。2名以上から対応可能です。

てんじん じゃ ほんでん むなふだ

天神社本殿と棟札

地域／北野[きたの]

13
マップ



国指定
重要文化財

天神社は建築様式からみて、室町時代中期以前(1400年頃)のものと考えられています。もとは天神の森の中にある明星岩を御神体としていましたが、応永(室町時代)年間に神託によって現在の地に社殿を造営したといわれています。一間社春日造りの社殿は、春日大社と比べて素朴な杉の厚板葺きである一方で、墓股[かえるまた]などの装飾を施しています。また、天正6年(1578)から慶応3年(1867)までの棟札16枚も伝わり、重要文化財となっています。

きゅう かすが しょうがっ こう こうどう

旧春日小学校講堂

地域／春日[かすが]

23
マップ



県指定
有形文化財

明治36年(1903)建造の校舎で、講堂を中心にして両側に教室棟が立ち並ぶ構造でしたが、現在は講堂だけを残しています。屋根は入母屋造り妻入りとして、両端には鯪瓦を飾り、玄関は正面に張りだして屋根入母屋造り、土間吹き放しとして、周囲に長押、欄間を回すなど学校建築として類例のない手法を残しています。和風を主調とした明治時代の学校建築物として、たいへん価値のある建築物です。現在は山添村歴史民俗資料館として村内で出土した遺物や民具を展示しています。

かすが じん じゃ ほんでん むなふだ

春日神社本殿と棟札

地域／春日[かすが]

24
マップ



県指定
有形文化財

本殿は一間社春日造り[いつけんしゃかすがづくり]、檜皮葺き[ひわだぶき]で境内の北端に南面して建てられています。永禄4年(1561)からの棟札が数多く残されており、現在の建物は寛永10年(1633)のもの(江戸時代前期)と考えられています。本殿は身舎組物[もやくみもの]の形式などに類例の少ない手法があるといわれています。境内若宮[けいだいわかみや]で行われる申祭りには能楽、狂言が奉納され、串着もふるまわれます。

のう めん

能面

地域／北野[きたの]

14
マップ

県指定
有形文化財



おきな
翁
(白色尉)

こくしきじょう
黒色尉

ちちのじょう
父尉
(白色尉)

桧材の白色尉[はくしきじょう]である「翁」、「父尉」と、「黒色尉」の3面があり、現在も旧彩色が残っています。これらの面はいきいきとした表情で明るい力強さをたたえており、室町時代の典型的な特徴をもった貴重な能面です。水間八幡神社に伝わる県指定文化財の面と一連のものではないかと考えられています。

うし が みね いわ や ますがた

牛ヶ峯岩屋柵型

地域／北野[きたの]

16
マップ

村指定
名勝



一枚の巨岩が自然に分裂したもので、そびえ立つ断崖絶壁(約16メートル)には柵の形を切り込み(柵型)、転がり落ちた下方の岩に一丈六尺の大日如来像を線彫し、底部を岩窟にして護摩壇を設けています(岩屋)。この岩窟を岩屋寺とし、入口頭上に本尊とする金剛界大日如来像(室町時代初期)を刻んだものと考えられています。その昔、弘法大師が岩屋に大日如来を彫り、使用した「のみ」と「つち」を柵型に納めたといわれています。三重県伊賀市(旧青山町)滝仙寺の本尊・須弥壇[しゅみだん]や弘法大師空海ゆかりの宝物が、天正10年(1582)の頃まで牛ヶ峯岩屋に保管されていたことが判明しています。

おそ せ じゅうさん ま が い ぶつ

遅瀬十三磨崖仏

地域／遅瀬[おそせ]

39
マップ

村指定
有形文化財



遅瀬の旧道添いにある大きな自然石に方形の枠を刻み、その枠内に仏像を多数刻んだものです。向かって左側の枠には六体地藏が刻んであり、向かって右側の大きい枠に四段にわたって十三仏の菩薩が二十六体陽刻され、その一対ずつに仏様の心を表す梵字[ぼんじ]が彫刻されています。室町時代後期の作と推定されています。

おお こ い せき

大川遺跡

地域／中峰山[ちゅうむざん]

40
マップ

村指定
史跡



名張川の河岸段丘上にあつて、縄文時代早期(1万2千年~7千年前)の住居跡や集石炉、焼土壇[しょうどこう]が確認されています。発見された住居跡は円形(直径3~3.8m、深さ40cm前後)に地面を掘り下げて上屋を建てた竪穴式住居で、内部に炉を設けていません。炉などは住居を取り巻くように設けられ、焼き石を用いた調理施設であったと考えられています。「大川式土器」と呼ばれる縄文時代早期の押型文土器や、石鏃[せきぞく]、石錐[せきすい]、尖頭器状石器、などの石器が多数出土しました。現在、遺物は歴史民俗資料館に展示されています。

かみ は た じん じゃ ほん でん むね ふだ

神波多神社本殿と棟札

地域／中峰山[ちゅうむざん]

41
マップ



県指定
有形文化財

この神社は、古くから除疫神[じょえきがみ]の牛頭天王[ごずてんのう]を祀り「波多の天王」として信仰を集めてきました。本殿は五間社流造り、桧皮葺き、礎石建てで、千鳥、向唐破風[むかいからはふう]によって外観に変化をもたせた手法を用いており、近代社殿建築の発展を示す重要な遺構です。数多くの棟札があり、元禄4年(1691)のものが最も古く、建立は江戸時代(17世紀中頃)と考えられています。秋季例祭(10月中旬)には神輿のお渡り、獅子神楽などが行われます。

こう はい じ ぞう ぼ さつ りゅう ぞう

光背地蔵菩薩立像

地域／中峰山[ちゅうむざん]

46
マップ



村指定
有形文化財

舟形光背に地蔵菩薩を浮き彫りにし、光背の頂部に阿彌陀三尊種字を記しています。蓮台は請花と光背が一体となっていて、側面に彫られた蓮華から蓮台への変化の中間段階として位置付けられ、その下には複弁の反花[かえりばな](正面三弁、側面各二弁)があります。光背地蔵菩薩の座りもよく一組の仏像として作られたものです。

た もん じ じ ぞう

多聞寺ショウト地蔵

地域／三ヶ谷[みかだに]

58
マップ



村指定
有形文化財

中世の奈良道の字[あざ]「ショウト」に建立されたもので、花こう岩製の光背に半浮彫りした地蔵仏です。建造年代は地蔵に銘記されている大永2年(1522)と考えられています。顔を正面から見ると、額の張った四角い形の風貌で左手に宝珠、右手に錫杖[しゃくじょう]を持っています。古くから、当時の僧や土豪の往来道として利用された奈良道の通行安全や足の仏として地域の人々や通行人から崇められていました。今なお、足の不自由な人がわらじを供えると霊験があるとして信仰を集めています。現在は多聞寺境内に安置されています。

け へらはい じ あと

毛原廃寺跡

地域／毛原[けはら]

70
マップ



国指定
史跡

笠間川を眼下にみる山麓に奈良時代の大寺院と同等の寺院が建立されていたと考えられており、金堂、中門、南門跡等の礎石が当時のまま残っています。礎石には梁方向に沿って溝が彫られ、他に例がない精巧なつくりをしています。寺についての文書記録が無いため、奈良大仏建立のために作られた「杣の支配所」とする説もあるようですが、確かなことが分かっていません。出土した軒丸瓦、軒平瓦はいずれも奈良時代後期のもので、廃寺跡より下流にある、岩屋瓦窯跡[いわやがようあと](マップ62)で焼かれたことが判明しています。

もく ぞう あ み だ によらいりゅうぞう

木造阿弥陀如来立像

西方寺[さいほうじ] 地域／広瀬[ひろせ]

52
マップ



国指定
重要文化財

鎌倉時代の仏師「快慶」作の仏像です。桧の寄木造りで金粉が塗られ、目には水晶製の玉眼が入っています。作風を見ると、頬や胸・腹などの肉付けに繊細な抑揚があり、左肩から出る紐のつる袈裟の彫出などにも布の質感がよく現れています。一方で、衣のひだは様式的に整然と構成されており、写実性と様式性がほどよく調和しています。切長の目、朱を刺したひきしまった口、かすかに笑みをふくんだかに見える顔、袈裟の彫出しや衣のひだは快慶の初期の作風をよく示している優れた作品です。現在は収蔵庫に安置されています。

もく ぞう じゅういち めん かん のんりゅうぞう

木造十一面観音立像

観音寺[かんのんじ] 地域／葛尾[くずお]

55
マップ



県指定
有形文化財

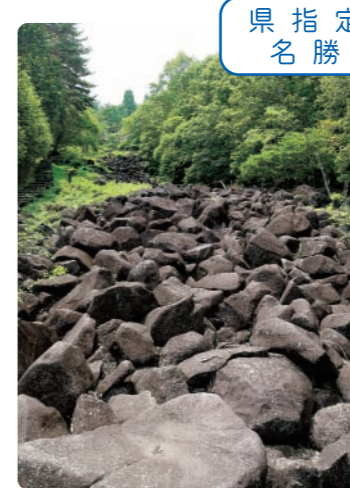
観音寺の秘仏であるこの像は平安時代後期の作と考えられており、若く肉付きのよい丸い顔立ちや、柔らかな丸みをもった肩の調子は清楚優美で時代の様相をよく表しています。蓮華座の上に立ち、右手を伸ばして内掌し、胸の前で左手に宝瓶を持っており、頭上に十一面があります。桧材の寄木造りで内割り[うちぐり]、金箔押を施していましたが、現在はごくわずかにその跡を残しているのみです。

こう の やま

神野山

連なる地域／大塩[おおしお]、北野[きたの]、助命[ぜみょう]、堂前[どうまえ]、伏拝[ふしよがみ]、箕輪[みのわ]

79
マップ



県指定
名勝

標高618.8メートルの緩やかな円錐型の山で、山の北東部には、長さ600メートル余りにわたって大小様々で黒々とした岩石が重なりあっている「なべくら溪」があります。この岩石は角閃斑れい岩[かくせんせきはんれいがん]と呼ばれ、大和高原の主な地質である花こう岩より硬いので長年の侵食に耐え、岩石でできた川のような珍しい景観を形成しています。また、神野山の自然林にはタブの木やマテバシイなど亜熱帯系、温帯系、暖帯系に属する珍しい樹木が茂り植物の宝庫とされています。神野寺境内の二次林も県の天然記念物の指定を受けています。

どうぞう ぼ さつはん か ぞう

銅造菩薩半跏像

でん によい りん かん のん ぞう
(伝如意輪観音像)

神野寺[こうのじ] 地域／伏拝[ふしよがみ]

80
マップ



国指定
重要文化財

この像は台座にたれる裳[も]のひだに飛鳥時代前期様式の名残りが認められるが、卵形の面の部分は目鼻立ちがこぶりで優しく、飛鳥時代後期に作られた像に通ずるものがあります。しかし、造立後に火災にあっており全身にわたって表面が荒れているので不明なところがあります。胴体が極めて細く作られているのは、朝鮮三国時代百済の小金銅仏の影響によるものと考えられています。日本では鞍作止利[くらつくりのとり]様式の衰退した飛鳥時代後期の造立と推定される菩薩像に、しばしばこの種の表現が見られます。思惟のポーズをとるこの半跏像の羽帽子のような宝冠は他に例がなく注目されています。現在は、奈良国立博物館に寄託されています。

ひがしやま ち く しん じ げい の う
東山地区神事芸能

22
 マップ

県指定無形民俗文化財 東山地区



すご う しゆん がく しゃ
菅生春楽社



すご う おど
菅生のおかげ踊り



かみ は た じん じゃ し し か ぐら
神波多神社獅子神楽



東山地区の6ヶ地域(室津、松尾、的野、桐山、峰寺、北野)で毎年の秋祭りの際に奉納される神事芸能です。各大字で頭屋(トウヤ：世話役)と渡り衆を選出して奉納を行っています。渡り衆は、烏帽子素襖姿[えぼしすおうすがた]で太鼓・鼓・笛・ササラなどを手にして田楽芸を奉納する行事として伝承されてきた貴重な芸能です。大字ごとに奉納の名前や所作、詞章[ししょう]が細かく異なっており、特色のある神事芸能が伝承されています。
 10月～12月の「秋祭り・例祭」で見ることができます。

村指定無形民俗文化財 地域／菅生[すごう]

29
 マップ

明治時代以前から春日・菅生・中峰山・遅瀬など各地域の祭り演芸として小謡(こうたい：能などの要所を抜き出した文章)が謡われてきました。芸能が盛んであった菅生では、明治18年(1885)に金春家元の分家を継いだ金春万次郎を招いて謡曲を習い始め、明治25年(1892)に「春楽社」と称する能・狂言の一座が結成され、現在に至ります。
 12月上旬～中旬に春日地区にある春日神社で行われる申祭りで見ることができます。

県指定無形民俗文化財 地域／菅生[すごう]

32
 マップ

おかげ踊りは、近世を通して最も規模の大きい集団の伊勢参宮となったおかげ参り(文政13年：1830)に付随して流行した踊りです。大和国一帯で流行したおかげ参りが伊勢講とともに今日まで伝承されてきたと考えられています。菅生のおかげ踊りは伊勢講のオドリコミの芸能として今日まで絶えることなく伝えられてきた大変稀有な民俗芸能です。
 8月中旬に開催している菅生の「盆踊り」の際に見ることができます。
 ※写真は平成27年に行われた奈良大芸術祭(JR奈良駅前)の様子

村指定無形民俗文化財 地域／中峰山[ちゅうむざん]

45
 マップ

毎年、神波多神社秋季例祭(天王祭り)の際に奉納され、「天王の獅子舞」として親しまれています。天王祭りのお渡御行列では獅子舞、天狗、鬼、道化が悪魔を払いながら牛の宮までねり歩きます。牛の宮と神波多神社境内で獅子舞が奉納されます。天狗や道化の持つ「棒ササラ」で頭を叩いてもらうと元気で賢く成長でき、獅子舞に頭を噛んでもらうと無病息災のご利益があるといわれています。
 10月中旬の「天王祭り」で見ることができます。



山添村の民俗文化 年間行事



4月 観桜会・花まつり・桜の花見(4月上旬)
 文化協会発表会(4月中旬)

10月 秋祭り・例祭(10月上旬～12月上旬)

5月 九十八夜の山登り(現：つつじ祭り。5月上旬)

11月 山添ふれあいまつり(11月3日)
 伝統文化こどもフェスティバル(11月中旬)

6月～7月 虫送り・田の虫送り(6月上旬～7月上旬)

12月 申祭り(12月上旬～中旬)

8月 盆祭り・お盆・地藏盆(8月上旬～8月中旬)

1月 山の神・七草粥(1月上旬)

9月 風の祈禱(8月下旬～9月初旬)

2月 厄除祈願(2月上旬～中旬)

お問い合わせは、山添村教育委員会事務局まで
 〒630-2344 奈良県山辺郡山添村大字大西151番地

電話 0743-85-0049
 メール kyoikuiinkai@vill.yamazoe.nara.jp